

前期博士課程

食・健康科学コース

【開講年度・学期】 2017年度・前期
【科目名】 食品機能科学特論
【英語表記】 Advanced Food Science
【科目ナンバリング】 HDADI6501
【担当教員】 増田 俊哉
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

近年、先進国の食品には、従来の栄養機能のみならず、二次、三次と言われる様々な機能が期待されている。このような機能性食品といわれる食品には、機能性を発現する特有な成分が存在するため、その成分を検出、分析し、さらに化学構造のレベルで特定することは、機能性食品の評価から開発に至るまで必要かつ不可欠である。本授業ではポリフェノールなどの食材・食品の機能性成分の精密な分析法を紹介し、その機能についても言及する。また、保蔵や加工の際にみられる成分変化についても触れる。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

- 1) 食品成分の機器分析概論 (1回)
- 2) 質量分析法 (ハードイオン化法) による食品機能成分分析 (2回)
- 3) 質量分析法 (ソフトイオン化、LC-MS法) による食品機能成分分析 (2回)
- 4) 食品機能成分の構造解析 1、UV-VIS法 (1回)
- 5) 食品機能成分の構造解析 2、IR法 (2回)
- 6) 食品機能成分の構造解析 3、 ^1H - $\&$ ^{13}C -NMR分光法 (3回)
- 7) 食品機能成分の構造解析 4、 ^2D -NMR分光法 (2回)
- 8) 食品機能成分の構造変化とその解析 (2回)

なお、授業回数は適宜変更することがある。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

最終の課題レポートの内容で評価する。また、授業への参加状況も考慮する。

【教材】

ビギナーズ有機構造解析 (化学同人) をテキストとして利用する。その他参考書やデータ集は講義中に紹介する。

【受講生へのコメント】

食品を、物質化学 (有機化学、分析化学) 的な面から考察するきっかけにしてください。

【開講年度・学期】 2017 年度・通年
【科目名】 食品機能科学特論演習
【英語表記】 Workshop in Advanced Food Science
【科目ナンバリング】 HDADJ7501
【担当教員】 増田 俊哉
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

食品機能化学特論の内容に関係し、最近の食品機能及びその成分に関する動向を調査する。また、機能成分分析データの解析能力も養成する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

輪番制で、文献紹介または研究成果の発表を行う。また、食品機能成分の分析データの解析を行い、総合的な研究実施能力を養う。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

発表、解析結果などを総合的に評価する。

【教材】

特になし。データ解析演習は資料配布。紹介文献がある場合は、受講者にあらかじめ配布。

【受講生へのコメント】

学術論文をそのまま読むのではなく、目的の意義、研究デザイン、考察の論理などを深く読み取り、批評できる実力を付けてください。また、実際の研究に使えるデータ解析力を付けてください。

【開講年度・学期】 2017年度・後期
【科目名】 食品微生物学特論
【英語表記】 Advanced Food Microbiology
【科目ナンバリング】 HDADI6502
【担当教員】 西川 禎一
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

現在、食品の安全性に対する市民の危機意識は高く、より高次な対応が求められている。当講義では、食品の衛生管理について、特に微生物による汚染・変質・食中毒の予防を中心に知識を授け、最新情報を収集し論議する。食品の衛生管理者として実務上の施策を設定できる基礎的能力を養う。また、微生物の有効利用による健康増進の可能性についても論じる。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 食品微生物学の基礎知識（講義と問題の解答・解説、5回）
2. HACCPプラン作成シミュレーション（講義とHACCPプラン作成の元になるフロー図作成、4回）
3. プロバイオティクスの効果とその機序（講義3回）
4. 院生による自由課題のプレゼンテーション（講義3回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート、セミナーの発表内容と考察を評価する。

【教材】

プリント配布

「よくわかる食品有害微生物問題集」 幸書房

【受講生へのコメント】

ノロウイルス、鳥インフルエンザ、E型肝炎ウイルス、BSEなど食の安全に関わる新たな問題が列挙の暇なく出現しています。基礎を学び、最新情報を収集して共に検討することで知識の更新と応用力の向上を図りましょう。

【開講年度・学期】 2017年度・通年
【科目名】 食品微生物学特論演習
【英語表記】 Exercise in Advanced Food Microbiology
【科目ナンバリング】 HDADJ7502
【担当教員】 西川 禎一
【授業形態】 演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

食品微生物学の最新研究論文を検討し、研究評価能力を高めると同時に各自の研究に応用する発想を促す。また、プレゼンテーション技術の向上を図る。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

微生物の有効利用による健康増進（特に生体防御機能の賦活）や抗加齢の可能性、食媒介感染症原因菌の病原機構とその検出方法について受講者自らが最新の情報を論ずることを課す。毎回、2名の口演者による論文紹介のプレゼンテーションと発表内容に対する質疑応答を中心に授業を進める。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

セミナーの発表内容と質疑応答を評価。

【教材】

細菌学、食品微生物学、老化、生体防御などに関連した国際的な学術誌に掲載の論文を適宜選択

【受講生へのコメント】

演習は大学院における研究者教育の核となるものです。他者の論文を、あたかも自らの研究データのようにバックグラウンドも含めて理解し、自分の研究を発表するつもりで紹介すれば、プレゼンテーションのスキルアップにもつながります。

【開講年度・学期】 2017年度・後期（隔年開講 2017年度開講）
【科目名】 免疫栄養学特論
【英語表記】 Advanced Immunonutrition
【科目ナンバリング】 HDAFI6501
【担当教員】 西川 禎一・中台 枝里子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

食品とその栄養が人の免疫機能に及ぼす影響に関する基礎知識を先ず修得する。次に、食品を介した感染症やアレルギーなどの生物学的危害について学ぶとともに、人の健康増進（特に生体防御能の発達と維持および賦活）における食品の役割を、プロバイオティクスなどの有用微生物や栄養成分を中心に考察する。また、食物アレルギーを題材として発生病機や予防方法に関する最新情報を受講者各人が収集し解説する。このような作業を通じて、収集した知識を整理し平易に解説する口演能力の涵養を図る。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 基礎免疫学の復習（講義5回）
2. 栄養と免疫（講義5回）
3. 食物アレルギーの機序と予防（受講生によるセミナー形式の発表：受講者各人に課題を割り振り、自ら具体的な症例や明解な実験データを収集し、これを授業においてプレゼンテーションする演習、5回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

セミナーの発表内容とプレゼンテーションのスキルを評価する。

【教材】

プリント配布

「食物アレルギーの手びき」 南江堂

「シンプル免疫学」 南江堂

「好きになる免疫学」 講談社

「粘膜免疫学の最前線」 医薬ジャーナル社

【受講生へのコメント】

学部学生時代に学んだ免疫学を復習した後、食物アレルギーについて受講者各自が文献情報を整理し、食物アレルギーやアトピーについて児童にも理解可能な説明をすることができると管理栄養士を目指してください。

【開講年度・学期】 2017年度・後期
【科目名】 食品衛生科学特論
【英語表記】 Advanced Food Hygienics
【科目ナンバリング】 HDADI6503
【担当教員】 古澤 直人
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

多様な食料の国際的貿易がビック・ビジネスとなっている現在。

食品の安全性確保の観点から、各種化学物質の残留/汚染問題をグローバルに取り上げ、その先駆的対策法を各論的に、さらに総括的に考察する。

Key Words: 内分泌攪乱物質 (i.e. 「環境ホルモン」) ; 食品汚染 ; 動物用医薬品 ; 食品残留 ; 残留モニタリング

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 食品の安全性とは？確保するには？ (2回)
2. 世界の中の日本 (1回)
3. 関連する科学論文読解・議論 (12回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

本講義に臨む姿勢、講義中の試問への対応および課題レポート

【教材】

適宜資料配布

【受講生へのコメント】

食の安全に対する己の考えを強く抱いて本講義に望んで下さい。

【開講年度・学期】 2017年度・通年
【科目名】 食品衛生科学特論演習
【英語表記】 Exercise in Advanced Food Hygienics
【科目ナンバリング】 HDAHJ7501
【担当教員】 古澤 直人
【授業形態】 演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

食品の安全性確保の基盤となる研究方法と得られた知見のプレゼンテーション法の習得。
広義の食品安全に関する国際科学論文（Reviews、研究etc.）を題材にした議論とHOW TO
国際誌投稿。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 関連国際論文についての議論（20回）
2. 国際科学論文への投稿know-how（10回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題のプレゼンテーション

【教材】

適宜資料配布

【受講生へのコメント】

【開講年度・学期】 2018年度・前期（隔年開講 2017年度休講）
【科目名】 食品衛生教育科学特論
【英語表記】 Food and Health Education
【科目ナンバリング】 HDAFI6502
【担当教員】 古澤 直人
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

食品衛生的「食育」法の習得。児童・生徒の健康のために、健全な食べ物の供給をはかり、食べ物を安全に摂取するために、これまで制定された法律、行政制度、食品安全の規格、基準、リスク分析手法などを学ぶ。次いで、児童の食生活を取り巻く環境において、食品に含まれる微生物、化学物質の安全性などについて、食品衛生的観点から専門知識を習得すると同時に、食に関わる高度の専門的職業人や教育者として習得した知識を実践し、また知識を広めることができる応用的な力を養う。さらに、児童・生徒に対する食品衛生教育の進め方について学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 児童の健全な食品の供給体制（5回）
2. 児童の食生活と食品衛生（5回）
3. 食品衛生教育と児童（5回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題提出レポート

【教材】

資料配布

【受講生へのコメント】

一教育者の姿勢で本講義に臨んで下さい。

【開講年度・学期】 2017年度・前期集中
【科目名】 食品酵素学特論
【英語表記】 Advanced Food Enzymology
【科目ナンバリング】 HDAHI6501
【担当教員】 伊藤 和央（理学研究科 生物分子機能学）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

食品に求められる最も重要な要素の1つは安全性である。その生産や加工の上で必要な化学反応を進行させる触媒として、タンパク質を本体とする酵素は生体にとって最も安全な触媒といえる。人類は古より経験的に様々な形態でこれを食品に利用してきた。また、近年の目覚ましい生化学の発展とともに積極的に酵素の機能を利用できるようになり、特に食品関連分野への利用はこれからもますます発展していくことが期待される。このため、酵素の基礎的な性質を理解することが重要となる。また、複雑な成分から成る食品には酵素の特異性が重要であるとともにその利用には様々な条件が要求されることを理解する必要がある。本講義では、酵素の性質とその食品分野への有用性の理解をめざす。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

まず、生体触媒としての酵素の基本的な性質を概説する。そして、その特異的な機能を利用した様々な食品の生産や加工について例を挙げて説明する。また、酵素機能の利用形態についても概説する。特に、糖質やタンパク質などの主要食品成分に関連する酵素の生化学的機能を、これら酵素の給源や生産などをまじえて概説する。

1. 酵素の基礎
2. 酵素の食品への利用

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

特にテキストは指定しないが酵素関連の専門書を参考にすることを薦める。

【受講生へのコメント】

食品と酵素の係わりを知り、食品分野への酵素機能の利用を期待する。

【開講年度・学期】 2017年度・通年集中（隔年開講 2017年度開講）
【科目名】 食品栄養科学特別講義
【英語表記】 Special Lectures on Food and Nutrition
【科目ナンバリング】 HDAHI6502
【担当教員】 佐伯 茂・酒井 寿郎（非常勤講師）・内田 浩二（非常勤講師）
池田 郁男（非常勤講師）・岡村 智教（非常勤講師）
小野 栄夫（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

この講義では、学外より講師を招き、食健康科学分野における幅広い話題の提供を受ける。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

植物性食素材をはじめとする多くの食品には抗発ガンプロモーターや種々の薬理作用を有する成分が含まれている。本講義では、生理機能物質の化学や構造一括性相関、さらには作用機構について解説するとともに機能性食品成分に関連する国内外の最新の動向について論述する。また、食品因子が腸管におよぼす機能について、食物と健康に関わる課題を提起する。

1. 酒井 寿郎 講師 3コマ
2. 内田 浩二 講師 3コマ
3. 池田郁男 講師 3コマ
4. 岡村智教 講師 3コマ
5. 小野栄夫 講師 3コマ

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

【教材】

【受講生へのコメント】

【開講年度・学期】 2017 年度・通年
【科目名】 栄養機能科学特論演習
【英語表記】 Exercise in the Science of Nutritional Functions
【科目ナンバリング】 HDAHJ7502
【担当教員】 小島 明子
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

栄養生化学および栄養病理学分野の研究の現状と問題点を把握し、それらに対処する研究方法を習得させることを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

栄養生化学特論および栄養病理学特論の講義内容を基礎として、栄養素の機能、生体機能調節因子の検索とその作用メカニズムなど食と健康に関する問題について検討する。

1. 関連文献の検索と紹介 (12回)
2. 研究法の検討 (6回)
3. 各自の研究内容についての紹介 (12回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

プレゼンテーションの方法および内容により評価。

【教材】

特になし。

【受講生へのコメント】

特になし。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期
【科目名】 生体エネルギー学特論
【英語表記】 Bioenergetics
【科目ナンバリング】 HDADI6504
【担当教員】 市川 直樹
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

生体のエネルギー産生、利用にかかる仕組みを生化学、分子生物学の視点から理解することを目的とするのが生体エネルギー学（バイオエナジェティクス）です。この講義では、エネルギー産生に必要な栄養素の吸収、代謝のしくみを学びます。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 栄養物質の燃焼とエネルギー代謝（3回）
2. 糖質の消化吸収と代謝（3回）
3. 脂質の生理機能、消化吸収、代謝（4回）
4. エタノール（お酒）の代謝（1回）
5. タンパク質の消化吸収と代謝（2回）
6. ビタミンとミネラル（2回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

試験

【教材】

教科書を指定します。田川邦夫 著「からだの働きからみる代謝の栄養学」（丸善）

【受講生へのコメント】

この授業の理解には、ある程度の理系の予備知識（大学卒業程度の生物と化学）が必要です。

【開講年度・学期】 2017年度・通年
【科目名】 生体エネルギー学特論演習
【英語表記】 Exercise in Bioenergetics
【科目ナンバリング】 HDADJ7503
【担当教員】 市川 直樹
【授業形態】 演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

研究を進める上で関連する情報を効率よく収集できることは大変重要である。また、自身の研究を他の研究者に知ってもらうことも大切である。そのような研究に関する情報の集め方と発信方法をこの授業では学ぶ。

生命科学分野の研究を進める上で必要な基本情報および文献をインターネットを用いて検索する。受講者の研究に関連した最新の文献を発表形式で講読し、自身の研究遂行に役立てる方法を学ぶ。また、研究発表（学会発表および論文発表）に必要な各種の技法（グラフィックソフトを用いた図表の作成方法、効果的なプレゼンテーションの方法など）についての指導を行う。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 生化学・分子生物学の研究論文（3回）
2. 生命科学分野のデータベース（3回）
3. PubMedとCitation Indexの便利な利用方法（3回）
4. 学会発表の準備と実践（3回）
5. 英語論文の書き方と投稿方法（3回）。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題発表

【教材】

特に定めない。

【受講生へのコメント】

【開講年度・学期】 2017年度・前期
【科目名】 栄養病理学特論
【英語表記】 Advanced Nutritional Pathology
【科目ナンバリング】 HDADI6505
【担当教員】 小島 明子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

疾病による形態と機能の変化を組織病理学的に観察することによって、疾病の本態を把握し、疾病に対する基礎知識を習得する。さらに、病態と栄養の関係を明らかにする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

疾病の発症メカニズムと各臓器内でおこる変化（現象）を明らかにし、さらにその原因を追求する。特に動脈硬化について焦点をあてる。また、疾病予防・治療としての「食事療法」の効果についても講義する。

1. 細胞、組織、臓器の構造（1回）
2. 細胞の順応と適応（1回）
3. 炎症と修復（1回）
4. 動脈硬化の発症と進展のメカニズム（4回）
5. その他の疾病の発症と進展のメカニズム（5回）
6. 食事療法の効果（3回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業中における姿勢・態度およびレポート

【教材】

随時プリントを配付する。

【受講生へのコメント】

身体の中で臓器（組織）が疾病によってどのように変化していくかを実際の病理組織像を用いて紹介します。本講義は病態栄養学、臨床栄養学の基礎にもなります。

【開講年度・学期】 2018年度・後期（隔年開講 2017年度休講）
【科目名】 発達臨床栄養学特論
【英語表記】 Advanced Developmental Clinical Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBFI6501
【担当教員】 小島 明子
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

小児期の発達過程において重要とされる食の問題について、食生活に何を求めるか、食生活の最近の傾向や小児期に多く認められる疾病とその問題点をあげ、特に若年層にみられる疾病についての成り立ちと症状および臨床栄養指導について述べる。さらに、これからの健康づくりの重要性について総合的に学習する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

いわゆる「子どもの生活習慣病」がどのような原因でおこっているのかについて、子どもをとりまく生活および環境面から追求する。さらに臨床栄養指導の重要性とその方法について学習する。

1. 子どもの生活習慣病について（3回）
2. 子どもを取りまく生活と環境（3回）
3. 臨床栄養指導について（9回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業中における姿勢・態度

【教材】

随時プリントを配付する。

【受講生へのコメント】

食育の重要性がクローズアップされている現在、栄養教諭がその中心を担わなくてはなりません。本講義はその基礎になる臨床栄養学の分野を提供します。

【開講年度・学期】 2018 年度・通年（隔年開講 2017 年度休講）
【科目名】 発達臨床栄養学特論演習
【英語表記】 Exercise in the Developmental Clinical Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBFJ7501
【担当教員】 小島 明子
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

発達臨床栄養学特論で学習する内容をさらに充実させるために、小児期に多く認められる疾患について、臨床栄養指導の模擬実習を各自行う。同時に、臨床栄養指導を行うのに必要なプランニングから指導後のフォローアップまでの実施計画を作成させるなど、小児期の健康づくりの重要性を体得させる。さらに、模擬授業によってプレゼンテーションする演習を課する。このような作業を通じて、収集した知識を整理・教育する能力を養成する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

小児期に認められる各々の疾患について、実際の臨床栄養指導の実施計画を各自が作成し、模擬授業を行う。相互に批評をしながら、より良い臨床栄養指導内容について検討する。

1. 臨床栄養指導実施計画の作成（25回）
2. 模擬授業（発表会）と各発表に対する批評・討論および検討会（5回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業中における姿勢・態度および発表内容

【教材】

随時プリントを配付する。

【受講生へのコメント】

臨床栄養指導において最も重要である「相手に理解され、納得させることができるような」プレゼンテーションの方法についても学習します。

【開講年度・学期】 2018 年度・後期（隔年開講 2017 年度休講）
【科目名】 公衆栄養学特論
【英語表記】 Public Health Nutrition
【科目ナンバリング】 HBDI6501
【担当教員】 由田 克士
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

国や地域あるいは職域集団における、生活習慣病予防、健康の保持・増進、生活の質の向上を目指すことを目的とした、公衆栄養学的取り組みに必要な知識や考え方を習得する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

主として成人を対象とした公衆栄養学的な取り組みを計画・実施・評価ができるようになるために必要な以下の内容について、具体例を示しながら理解を深める。

1. 公衆栄養学の基礎的事項の整理（2回）
2. 国や地域における健康・栄養の現状（3回）
3. 国や地域における公衆栄養施策とその評価の実際（5回）
4. 職域における公衆栄養施策とその評価の実際（3回）
5. これからの公衆栄養施策のあり方について（2回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【テキスト及び参考書】

資料を配付する

（参考書）国民健康・栄養の現状（第一出版）

（参考書）国民衛生の動向（厚生統計協会）

【受講生へのコメント】

国や地域における健康・栄養の現状やそれに応じた公衆栄養施策等の展開に関する報道や情報については、常に関心を持つようにしてほしい。

【開講年度・学期】 2017 年度・通年
【科目名】 公衆栄養学特論演習
【英語表記】 Exercise in Public Health Nutrition
【科目ナンバリング】 HBDJ7501
【担当教員】 由田 克士
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

国や地域あるいは職域集団における、生活習慣病予防、健康の保持・増進、生活の質の向上を目指すことを目的とした、公衆栄養学的取り組みに必要な手技や手法を理解し身につけることを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

主として成人を対象とした公衆栄養学的な取り組みを計画・実施・評価ができるようになるために必要な以下の内容について、具体例を示しながら理解を深める。

1. 模擬データを用いて、集団レベルでの食事調査成績をさまざまな角度から集計・評価する。(10回)
2. 国内外の公衆栄養とこれに関連する分野で実施された研究についてテーマを設定し、文献検索を行い、これを取りまとめて報告(プレゼンテーション)を行う。(10回)
3. わが国における国や地域等における公衆栄養施策について情報収集し、それらの評価を実施すると共に、さまざまな問題点について考察し、報告(プレゼンテーション)と意見交換を行い、その対応策を検討する。(10回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

資料を配付する

(参考書) 食事調査マニュアル(日本栄養改善学会、南山堂)

(参考書) 医療系のためのやさしい統計学入門(中村好一編 診断と治療社)

【受講生へのコメント】

公衆栄養学的な物事の見方や考え方は、栄養・食生活の状況を客観的に広くとらえようとするところから、ヒトを対象としたさまざまな関連分野での応用が可能である。

【開講年度・学期】 2017 年度・後期（隔年開講 2017 年度開講）
【科目名】 栄養疫学特論
【英語表記】 Nutritional Epidemiology
【科目ナンバリング】 HBDI6502
【担当教員】 由田 克士
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

ヒトを対象とした栄養疫学研究の計画・実施・評価のために必要な知識や技術について理解を深める。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 疫学・栄養疫学の基礎的事項（5回）
2. 食事調査法（5回）
3. 栄養・食生活と循環器疾患の関わりを中心とした栄養疫学研究について（5回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

資料を配付する

（参考書）はじめて学ぶやさしい疫学（日本疫学会、南江堂）

（参考書）食事調査マニュアル（日本栄養改善学会、南山堂）

【受講生へのコメント】

栄養疫学的な物事の見方や考え方は、健康・栄養・食生活の状況を客観的に広くとらえようとするものであることから、ヒトを対象としたさまざまな関連分野での応用が可能である。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期（隔年開講 2017 年度開講）
【科目名】 発達公衆栄養学特論 I
【英語表記】 Child development and Public Health Nutrition I
【科目ナンバリング】 HDBFI6502
【担当教員】 由田 克士・福村 智恵
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

児童・生徒を対象とする適切な公衆栄養に関連する支援・指導を実施するため、子ども期の発育・発達の特徴について学習する。また、児童・生徒をはじめ子ども期における健康維持・増進における栄養と食生活の重要性も習得する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

児童・生徒を対象とする公衆栄養に関する指導を行う基礎知識として、子ども期（胎児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期）の健康と栄養の関連性や望ましい成長について理解を深める。

1. 子どもの発達と健康・栄養（2回）
2. 子どもにおける成長のモニタリング（5回）
3. 子どもの体格と健康・栄養の関連（5回）
4. 学校保健統計調査の概要・関連調査の成績（3回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

藤枝憲二 監修 加藤則子 編 「現場で役立つラクラク成長曲線」（診断と治療社）
その他プリント等を配布

【受講生へのコメント】

栄養教諭専修免許に対応する科目です。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期（隔年開講 2017 年度休講）
【科目名】 発達公衆栄養学特論Ⅱ
【英語表記】 Child development and Public Health Nutrition Ⅱ
【科目ナンバリング】 HDBFI6503
【担当教員】 由田 克士・福村 智恵
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

学校教育における児童・生徒の栄養改善、健康づくり等を適切に実施するための基礎知識として、現代社会における子どもの健康・栄養問題を理解し、その食生活との関連性について考察を深める。さらに、学校現場における食生活改善の実践力を身につける。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

子ども期の発育・発達及び健康維持・増進と食生活や食行動の関連性について、国全体の状況も踏まえながら理解する。ついで、児童・生徒の望ましい成長と健康増進に欠かせない、エネルギーや栄養摂取の指針である日本人の食事摂取基準や学校給食摂取基準の策定根拠や意義、あるいは、関連する取り組みについて公衆栄養学の立場から考察する。

また、児童・生徒の食と心身の健康を指導する立場から地域や社会の資源を活用する方策を学び、学校教育における児童・生徒の健康づくり運動のための実践力を身につける。

1. 現代社会における子どもの健康・栄養問題の状況（3回）
2. 子どもの健康と食生活の関連性（2回）
3. 子どもにおける望ましい栄養・食生活のための指針や取り組み（5回）
4. 家庭、地域・社会における児童・生徒の健康づくり運動と社会資源の活用（5回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

資料を配布する

（参考書）厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準（2015年版）（第一出版）

【受講生へのコメント】

栄養教諭専修免許に対応する科目です。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期
【科目名】 栄養医科学特論 I
【英語表記】 Advanced Nutritional Medicine I
【科目ナンバリング】 HDAFI6503
【担当教員】 羽生 大記
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

患者に対する栄養学的治療を実践する際に必要な栄養学的評価法、食事栄養療法による介入、その成果の評価法を学ぶ。入院中の患者を実際にみて理解を深め、栄養教育の場に生かす。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

毎週15週間にわたって附属病院における肝胆膵内科を中心としたNutrition Support Team (NST) のカンファレンスに参加し、実際の臨床現場における栄養評価法、栄養処方 の立案法を習得する。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポートなど

【教材】

適宜プリントなどを配布

【受講生へのコメント】

附属病院の肝胆膵内科NSTに参加し、実際のNSTを経験しながら、主に肝胆膵疾患に 対する栄養ケアプランの立案、評価、修正の過程を学びます。
栄養教諭専修免許に対応する科目です。

*履修希望者は、附属病院へ見学・実習実施届を出す必要がありますので、履修届を出す 前に羽生まで相談してください。

【開講年度・学期】 2017 年度・後期
【科目名】 栄養医科学特論Ⅱ
【英語表記】 Advanced Nutritional Medicine Ⅱ
【科目ナンバリング】 HDAHI6503
【担当教員】 羽生 大記
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

患者に対する栄養学的治療を実践する際に必要な栄養学的評価法、食事栄養療法による介入、その成果の評価法を学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

毎週15週間にわたって附属病院における消化器内科を中心としたNutrition Support Team (NST) のカンファレンスに参加し、実際の臨床現場における栄養評価法、栄養処方立案法を習得する。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポートなど

【教材】

適宜プリントなどを配布

【受講生へのコメント】

附属病院の消化器内科NSTに参加し、実際のNSTを経験しながら、主に消化器疾患に対する栄養ケアプランの立案、評価、修正の過程を学びます。

*履修希望者は、附属病院へ見学・実習実施届を出す必要がありますので、履修届を出す前に羽生まで相談してください。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期
【科目名】 肝胆膵病学特論 I
【英語表記】 Advanced Hepato-Biliary-Pancreatology I
【科目ナンバリング】 HDAGI6503
【担当教員】 羽生 大記
【授業形態】 講義、演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

管理栄養士として接することの多い、肝胆膵病に関して附属病院で実際の症例に接することで肝胆膵疾患に対する経験と学識を深める。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

週 1 回、計 15 週（15 回）附属病院において、肝胆膵病態内科病棟回診に参加し、実際の肝胆膵症例に多く接し、造詣を深める。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

ケースプレゼンテーションを評価

【教材】

適宜プリントなど配布

【受講生へのコメント】

附属病院における肝胆膵病態内科病棟の回診に参加し、実際に肝胆膵疾患の患者様に接することで、肝胆膵疾患に対する理解を深めます。

*履修希望者は、附属病院へ見学・実習実施届を出す必要がありますので、履修受験届を出す前に羽生まで相談してください。

【開講年度・学期】 2017年度・前期
【科目名】 NST特論演習
【英語表記】 Exercise in Nutritional Support Team
【科目ナンバリング】 HDBGJ7501
【担当教員】 羽生 大記・安井 洋子
【授業形態】 演習
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

高次機能病院において行われているNSTカンファレンスに参加し、我が国の臨床現場において管理栄養士に求められている知識、スキルを学び、重症低栄養患者に関する最新の栄養治療法を習得する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

当科関連の高次機能病院におけるNSTカンファレンスに参加し、実際の症例を対象に栄養評価法、栄養治療方を学ぶ。(15回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

ケースプレゼンテーションを評価

【教材】

適宜プリントなど配布

【受講生へのコメント】

高次機能病院におけるNSTカンファレンスに参加し、低栄養患者の栄養状態を正確に評価し、疾患特異的、手術法に特徴的な栄養評価、栄養治療法を学びます。
栄養教諭専修免許に対応する科目です。

*履修希望者は、附属病院へ見学・実習実施届を出す必要がありますので、履修受験届を出す前に羽生・安井まで相談してください。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期
【科目名】 臨床現場における栄養管理特論
【英語表記】 Advanced Nutrition Management in the Clinical Field
【科目ナンバリング】 HDBHI6501
【担当教員】 安井 洋子
【授業形態】
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

臨床現場における管理栄養士業務は、衛生管理、給食管理、栄養管理の 3 本柱を基本として構築される。これら 3 本柱のそれぞれを理解することで、より適切な栄養管理を行うためのノウハウを深め、能力を養成する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 患者給食提供業務として必要とされる衛生管理
2. 患者給食提供業務として必要とされる給食管理
3. 患者の栄養管理を行うために必要とされるスキル

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業への積極性、レポートなど

【教材】

適宜プリントなどを配布する。

参考：管理栄養士必携 公益社団法人 日本栄養士会編 第一出版など

【受講生へのコメント】

臨床現場で必要とされる管理栄養士の業務を習得します。

【開講年度・学期】 2017 年度・通年
【科目名】 臨床現場における栄養管理特論演習
【英語表記】 Exercise of Advanced Nutrition Management in the Clinical Field
【科目ナンバリング】 HDBHJ7501
【担当教員】 安井 洋子
【授業形態】
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

疾病の改善および健康維持を目的とする対象者への介入は、対象者の背景を正確に把握し、正確に情報を伝え、いかに行動変容へと導くかが手腕とされる。そのためには、客観的に診る眼、企画立案する能力、そして行動力が必要とされる。演習を行うことで、その手技を学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 媒体等の作成
2. 食事記録の栄養評価および実践
3. 栄養介入方法と実践

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業への積極性、レポートなど

【教材】

適宜プリント、教材などを配布する。

【受講生へのコメント】

臨床栄養学等で学んだことを実践するため、積極性が必要とされます。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期
【科目名】 臨床栄養治療特論 I
【英語表記】 Advanced nutritional treatment I
【科目ナンバリング】 HDBG16501
【担当教員】 安井 洋子
【授業形態】 講義・演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

未病の高齢者を対象とした、健康教室にて実際に介入するための管理栄養士としての必要とされる手技、介入方法等を学びます。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

アベノハルカスMedCity21をフィールドとし、担当医と連携をとりながら健康教室を開催しています。未病の高齢者を対象に管理栄養士として介入し、健康維持へ導く方法について学びます。

1. 食事聞き取りのテクニック、栄養評価方法を学ぶ
2. 測定機器等の取り扱いを習熟
3. SATシステムを習熟

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業への積極性およびレポート提出により評価

【教材】

適宜プリントなど配布

【受講生へのコメント】

教室の開講曜日（木曜日13時～）が決まっているため、他教科との時間調整が必要となります。

【開講年度・学期】 2017 年度・後期
【科目名】 臨床栄養治療特論Ⅱ
【英語表記】 Advanced nutritional treatmentⅡ
【科目ナンバリング】 HDBG16502
【担当教員】 安井 洋子
【授業形態】 講義・演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

未病の高齢者を対象とした、健康教室にて実際に介入していきます。管理栄養士としての必要とされる手技、介入方法等について実践を通して学びます。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

アベノハルカスMedCity21をフィールドとし、担当医と連携をとりながら健康教室を開催しています。健康維持へ導く方法について実際に参加者を受持ち、栄養指導を行います。

1. SATシステムなど教材を使って指導
2. 個人を対象とした栄養指導の実践
3. 集団を対象としたプレゼンテーションの実践

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業への積極性とプレゼンテーションの方法等により評価。

【教材】

適宜プリントなど配布

【受講生へのコメント】

教室の開講曜日（木曜日 13 時）が決まっているため、他教科との時間調整が必要となります。

【開講年度・学期】 2017 年度・通年集中
【科目名】 実践栄養治療特論演習
【英語表記】 Exercise in advanced practice of nutritional treatment
【科目ナンバリング】 HDBGJ7502
【担当教員】 羽生 大記・安井 洋子
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

地域の栄養ケア、栄養教育活動、啓発の場に参加し、管理栄養士として栄養教育を通じた社会貢献のあり方を学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

実際の地域の健康教室に参加し、幼少児、青年、壮年、高齢者など地域在住の健常者に対する健康作りのイベントに参加し、栄養教育面からの健康作りに貢献する方法を習得する。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポートなど

【教材】

適宜プリントなど配布

【受講生へのコメント】

地域の健康教室、地域の病院主催の糖尿病啓発イベント、区主催のキッズ対象の食・栄養教室など、年間を通じた様々な地域コミュニティの健康作りイベントに参加し、管理栄養士としての知識とスキルを活かした社会貢献法を体験します。

【開講年度・学期】 2018 年度・後期（隔年開講 2017 年度休講）
【科目名】 生体情報学特論
【英語表記】 Molecular and Biochemical Nutrition
【科目ナンバリング】 HDADI6506
【担当教員】 佐伯 茂・金 東浩
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

動脈硬化症、高脂質血症、肥満症、糖尿病などの生活習慣病の発症には遺伝因子が関与するが、食習慣の改善により発症を遅らせる、あるいは進行を遅らせることができる。有効な食習慣を構築するには疾病発症に関わる分子機構を理解する必要がある。そこで本講義では、生活習慣病の発症に関わる分子機構について学ぶことを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

本講義では、まず動脈硬化症の発症に関わる脂質・コレステロール代謝の分子生物学的な代謝調節機構について学び、続いて糖尿病、動脈硬化症、肥満症の発症に関わる分子生物学的な代謝調節機構な代謝機構について学ぶ。

1. コレステロール代謝の分子機構 (5回)
2. 脂質代謝の分子機構 (5回)
3. 肥満症・糖尿病の分子機構 (5回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

マッキー生化学（第3版）、化学同人； 分子細胞生物学（第5版）、東京化学同人関連論文

【受講生へのコメント】

講義では、受講者自らが原著・文献を調べ、積極的に講義に参加することが要求される。また、他の大学や研究機関に所属する研究者をお呼びし、授業の一環として特別講義を開催する年度もある。

【開講年度・学期】 2017 年度・通年
【科目名】 生体情報学特論演習
【英語表記】 Exercise in Molecular and Biochemical Nutrition
【科目ナンバリング】 HDAHJ7503
【担当教員】 佐伯 茂・金 東浩
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

生体栄養情報学の最新情報・実験方法などを習得し、実際の研究に適用する際の問題点を整理する方法論を把握する。更に、研究成果を発表する方法を学ぶ。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 生体情報学の最新知見の情報収集 (4回)
2. データベース検索 (3回)
3. プレゼンテーション資料の作成 (4回)
4. 科学論文の作成方法 (4回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題発表

【教材】

理科系の作文技術 (中公新書)、理科系のための英文作法 (中公新書)、科学英語論文のすべて (丸善株式会社)、英語口頭発表のすべて (丸善株式会社)、生物統計学入門 (培風館)、医学への統計学 (朝倉書店)、関連論文

【受講生へのコメント】

積極的に発言することを切望します。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期
【科目名】 生体機能学特論
【英語表記】 Molecular Cell Biology
【科目ナンバリング】 HDAHI6504
【担当教員】 金 東浩
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

生体の細胞は、恒常性（ホメオスタシス）を維持するために様々な機能性タンパク質を産生する。機能性タンパク質の異常は、遺伝要因と環境要因により惹起され、生体恒常性の破綻と疾病の原因となる。本講義は、細胞内で産生される酵素、受容体、生体応答分子等の機能性タンパク質の役割を理解し、生体恒常性の分子機構を分子細胞生物学的に理解することを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

生体を構成する細胞の構造と機能、遺伝子の発現と調節について講義し、酵素、受容体、生体応答分子等の産生と機能について講義する。次に、生体恒常性の分子機構に関する研究の関連文献を解説する。

1. 細胞の構造と機能（2回）
2. 遺伝子の発現と調節（4回）
3. 酵素（2回）
4. 受容体（2回）
5. 生体応答分子（2回）
6. 生体恒常性の分子機構（3回） / 計15回

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

プリント、随時テキスト、関連文献を用いる。

【受講生へのコメント】

専門用語は原語で理解するように努力しましょう。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期
【科目名】 栄養教育学特論
【英語表記】 Advanced Nutrition Education
【科目ナンバリング】 HBDI6503
【担当教員】 春木 敏
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

栄養教育は、一連のマネジメントサイクルに則ってすすめられる。その過程においては、行動科学理論や健康教育論が適用される。わが国の栄養教育の現状を再確認し、栄養教育の国際的動向を知り、栄養教育の課題解決と方法論を検討するために、先進的な栄養教育プログラムの立案、実施、評価、フィードバックについて学修する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

- | | |
|------------------------------|------|
| 1. わが国の栄養教育の現状 | (1回) |
| 2. 諸外国の健康栄養教育の動向 | (2回) |
| 3. 健康栄養教育の評価法 | (1回) |
| 4. 行動科学理論に基づく先進的な健康栄養教育プログラム | |
| 1) 栄養教育プランニング | (2回) |
| 2) 栄養教育マネジメント | (5回) |
| 3) 栄養教育アセスメント | (3回) |
| 4) 栄養教育フィードバック | (1回) |

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題別レポートにより評価する

【教材】

プリント教材を用いる

実践 ヘルスプロモーション 神馬征峰訳
ヘルスプロモーションの評価 訳 鳩野洋子他訳 医学書院
エッセンシャル栄養教育論 春木敏編著 医歯薬出版

【受講生へのコメント】

栄養教育の現状を知るために、国内外を問わず、逐次情報を得ることは欠かせません。社会事象を正確に把握、分析し、人々の食生活について近未来の予測ができるよう情報収集に努めましょう。

【開講年度・学期】 2017 年度・通年
【科目名】 栄養教育学特論演習
【英語表記】 Exercises for Advanced Nutrition Education
【科目ナンバリング】 HBDJ7502
【担当教員】 春木 敏
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

健康的な食行動の形成と生活習慣化を図る行動科学理論に基づく栄養教育方法論を用い、ヘルスプロモーションに寄与する栄養教育の実践活動をとおして、研究課題に応じた演習へ発展させる。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 研究対象の健康栄養課題を抽出し、研究計画を立案する。 (5 回)
2. 研究の進捗状況により、必要なプレゼンテーション、ディスカッションをする。 (1 5 回)
3. 行動科学理論に基づく先進的な健康栄養教育プログラムの検討と演習 (1 0 回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

プレゼンテーション、レポートにより評価する

【教材】

プリント教材を用いる

【受講生へのコメント】

基礎理論を踏まえたうえで、研究課題に基づき関連文献を検索し、先行研究から学ぶことを心がけましょう。

【開講年度・学期】 2017 年度・後期（隔年開講 2017 年度開講）
【科目名】 学校栄養教育法特論
【英語表記】 Advanced School Nutrition Education
【科目ナンバリング】 HDBE16501
【担当教員】 春木 敏
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

食の社会化が進むわが国では、人々の価値観も多様化、個別化し、青少年においてもさまざまな食生活が展開されていることを認識し、食環境を含む学校、家庭、地域を連携する包括的な健康栄養教育の方法論を学修する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 児童生徒の栄養アセスメントの方法論および解析について (2回)
2. 児童生徒の食生活アセスメントの方法論および解析について (2回)
3. 児童生徒が食生活の自己管理能力を高めることを目標として、自らの食生活を振り返り、問題解決ができる学校栄養教育の方法論について検討する (3回)
4. 小中学校における教科学習における”食に関する指導”の検討 (6回)
5. 系統的な栄養教育を実施するために、開講学年別教科学習について、学習内容・授業法等について調べ、有機的な”食に関する指導”の方法論を検討する (2回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題別レポートにより評価する

【教材】

プリント教材を用いる

児童生徒の健康状態サーベランス 日本学校保健会
児童生徒の食事状況実態調査報告書 日本スポーツ振興センター
学校保健の動向 日本学校保健会
食に関する指導の手引 第一次改訂版 文部科学省
食に関する指導ハンドブック 大阪府教育委員会 etc.

【受講生へのコメント】

健康的な食生活管理は、子どもの豊かな心とからだを育みます。児童生徒の食・健康実態の把握から子どもたちが主体的に学び行動につなぐ具体的な栄養教育方法論を検討しましょう。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期（隔年開講 2017 年度休講）
【科目名】 児童生徒の健康・栄養教育特論
【英語表記】 Advanced Health Nutrition Education for school children
【科目ナンバリング】 HDBEI6502
【担当教員】 春木 敏
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

生活習慣は幼少年期にその基本が形成されることより、児童生徒の健康栄養教育は、健康的な生活習慣の形成に重点をおく。生活習慣は、各人が持つ健康観や健康に関する知識、態度に加え、調理スキルや運動スキルなど特定の行動に必要となる具体的スキルなどの個人的要因と家族や友だちなど周囲の人々の行動やマスメディアといった社会的要因の影響をうけながら形成される。児童生徒を対象とする行動科学理論に基づいた健康栄養教育プログラムを概観し、保護者や教師との関わり、社会環境の影響を考える。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 青少年を対象とする総合的な健康教育プログラム Know Your Body (2回)
2. Japan Know Your Body プログラム (6回)
3. 児童生徒の発達段階に適したプログラムの検討 (2回)
4. 保護者や地域を取り入れた包括的な CATCH プログラム (2回)
5. 学校・家庭・地域を結ぶ栄養教育コーディネートの方法 (3回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題別レポートにより評価する。

【教材】

プリント教材を用いる

American Health Foundation Know Your Body
ライフスキルを育む食生活教育 J K Y B 研究会編 東山書房
Food for Health guide to healthy eating NHMRC
小児の発達栄養行動 二木武,他編著 医歯薬出版

【受講生へのコメント】

先進的な諸外国の栄養教育プログラムの特性に注目し、子どもたちが主体的に学び、行動につなぎ、楽しく学んで実践できるプログラムを日本の児童生徒に適用しましょう。

【開講年度・学期】 2018 年度・後期（隔年開講 2017 年度休講）
【科目名】 児童生徒の健康・栄養教育特論演習
【英語表記】 Exercises for the Health Nutrition Education for school children
【科目ナンバリング】 HDBFJ7502
【担当教員】 春木 敏
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

児童生徒の健康的な食行動、食習慣形成をめざし、一般教科なかでも、家庭科、保健・体育科に加え、「総合的な学習の時間」、生活科、道徳、特別活動、給食の時間などにおいて有機的な教育展開をし、学校、家庭、地域を結ぶ包括的な学校健康栄養教育のモデルを検討し、スクールヘルスプロモーションを適用する方法を検討する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

- | | |
|---------------------------------|------|
| 1. 児童生徒の健康栄養課題を取りあげるための質問紙を作成する | (2回) |
| 2. 健康栄養課題解決のための栄養教育プログラムを作成する | (4回) |
| 3. 授業案を作成する | (2回) |
| 4. ワークシート・教材を作成する | (4回) |
| 5. 評価のためのモニタリングシートを作成する | (4回) |
| 6. 授業シミュレーションをする | (4回) |
| 7. ”食に関する指導“の評価 | (6回) |
| 8. 授業案の再検討 | (4回) |

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

課題別レポートにより評価する

【教材】

プリント教材を用いる
学習指導要領 文部科学省 食に関する指導の手引第一次改訂版 文部科学省
食に関する指導ハンドブック 大阪府教育委員会
e-learning 先生のための食育教室 etc.

【受講生へのコメント】

児童生徒の興味関心なども知っておくことが楽しい授業を作ります。私ならこんなこと知りたい、こんな風に学習したい、相談したいというように子どもの目線で考えることも発達段階に即した授業作りに欠かせません。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期
【科目名】 給食経営管理特論
【英語表記】 Advanced food service management
【科目ナンバリング】 HDBHI6502
【担当教員】 上田 由喜子
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 26 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

集団を対象とする給食を含めた食環境づくりは、ライフスタイルの違う様々な対象層に広くはたらきかけることが可能なポピュレーション・アプローチであり、一次予防の視点から特に重要とされている。本講義では、食品の選択から望ましい食行動に至る心理的プロセスを学び、行動変容を促す方法や原理について理解する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 行動変容に関する理論モデル（2回）
2. 食環境と食物選択行動（4回）
3. 情報へのアクセスの妥当性（3回）
4. 食環境に関する質問紙の構成と分析（6回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポートなど

【教材】

適宜プリントなどを配布

【受講生へのコメント】

講義で紹介する学術論文等を読み、理解を深めましょう。

【開講年度・学期】 2017 年度・前期（隔年開講 2017 年度開講）
【科目名】 学校栄養・食事指導特論
【英語表記】 Advanced school nutrition and meal counseling
【科目ナンバリング】 HDBFI6504
【担当教員】 上田 由喜子
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

給食時間における食に関する指導の方法と意義を理解し、集団を基本としながら個に応じた対応や指導のあり方の教育的重要性を知る。さらには専門的立場から、子どもの気持ちを引き出すカウンセリング技法と個別指導の進め方について考察できるようにする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 学校給食の役割と給食時間における食育の推進（4回）
2. 学校給食を生きた教材として活用するための工夫（2回）
3. 個別指導の基本的な考え方と集団指導との関連（2回）
4. 指導方法と評価に関する文献レビュー（7回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポートなど

【教材】

プリント教材を用いる

【受講生へのコメント】

一般的な集団指導と個別指導のそれぞれのメリットと限界を知り、指導の効果を上げるにはどのような方法が子どもの発達段階に適切か、探求してみましょう。

【開講年度・学期】 2018 年度・通年（隔年開講 2017 年度休講）
【科目名】 学校栄養・食事指導特論演習
【英語表記】 Workshop in advanced school nutrition and meal counseling
【科目ナンバリング】 HDBFJ7503
【担当教員】 上田 由喜子
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

子どもたちは、多種多様な食べ物に囲まれ、欲しい物はいつでもすぐに手に入る豊かな食環境におかれている。その一方で、栄養のバランス、食事のあり方などに多くの問題がみられる。毎日の生活を快適に、しかも豊かなものにするために食育においても、自ら考え主体的に判断し行動できる「問題解決能力」が求められている。栄養教諭が行う問題解決能力を高める学習活動について、演習をとおして考察する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 食に関する課題の考察（8回）
2. 課題とその要因との関連を文献レビューにより評価（10回）
3. 文献レビューの結果に基づく演習（12回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポートおよび演習により評価

【教材】

必要に応じてプリントを配付

【受講生へのコメント】

学校教育の中で効果的に食育を推進していく教育方法について考えていきましょう。

【開講年度・学期】 2017 年度・後期
【科目名】 応用栄養学特論
【英語表記】 Advanced Applied Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBHI6503
【担当教員】 福村 智恵
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

社会環境とライフスタイルの著しい変化により、近年、生活習慣病をはじめとする慢性疾患の罹患率の増加が大きな社会問題となっている。これらは乳幼児から高齢者までの各ライフステージにおいて共通した健康課題となっているが、その解決のために必要な食生活及び栄養に関する専門知識を最新文献とともに学び、対象者に応じた対策法を考察する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 健康と栄養に関する動向と課題 (2回)
2. 生活習慣病と栄養 (4回)
3. 各ライフステージに応じた栄養マネジメントについて (9回)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート、総合的評価

【教材】

随時、プリント、関連文献を用いる。

【受講生へのコメント】

講義で紹介する学術論文等を読み、理解を深めましょう。

【開講年度・学期】 2017 年度・通年
【科目名】 応用栄養学特論演習
【英語表記】 Exercise in Advanced Applied Nutrition
【科目ナンバリング】 HDBHJ7502
【担当教員】 福村 智恵
【授業形態】 演習
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可（平成 29 年度以降入学生対象）

【科目の主題】

胎生期から高齢期にいたるまでの生涯を通じた身体的・精神的・社会的な変化と、各々のライフステージにおける健康課題を理解し、栄養面からの適切な対策を講じるための方策について検討・考察する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 各ライフステージにおける健康課題に関する文献の検索と紹介（10回）
2. 各ライフステージにおける健康課題に対する対応策の検討（10回）
3. プレゼンテーション資料の作成と発表・討論（10回）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート、総合的評価

【教材】

随時、プリント、関連文献を用いる。

【受講生へのコメント】

積極的な姿勢で臨みましょう。

【開講年度・学期】 2017年度・後期
【科目名】 身体運動科学特論
【英語表記】 Advanced Science in Exercise and Sport
【科目ナンバリング】 HDAHI6505
【担当教員】 渡辺 一志（都市健康・スポーツ研究センター）
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

運動の発現と運動に対する身体の適応機序について、運動の質と代謝系、神経系、呼吸循環系等との関わりについて論じるとともに、運動やスポーツパフォーマンスの向上に寄与するコンディショニングや目的に応じた運動、トレーニングの意義、方法について理解を深める。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

講義を中心に発表や運動の発現及び運動に対する身体の適応機序についての理解を深めるべく測定や実験も必要に応じて実施する。

1. 体力と身体組成（1～3）
2. 運動と筋、筋収縮（4～5）
3. 運動と代謝（6～8）
4. 運動と呼吸循環（9～11）
5. 運動・スポーツとコンディショニング（12～13）
6. トレーニングとその理論的背景（14～15）

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

必要に応じて資料を配付し文献の紹介を行う。

【受講生へのコメント】

参加型、双方向性の授業を心がけています。積極的に参加し、身体運動を探求する楽しさに触れて理解を深めて下さい。

【開講年度・学期】 2018 年度・前期集中（隔年開講 2017 年度休講）
【科目名】 食文化特論
【英語表記】 Advanced Studies in Food Culture
【科目ナンバリング】 HDAFI6504
【担当教員】 南 直人（非常勤講師）・奥村 彪生（非常勤講師）
【授業形態】 講義
【単位数】 2 単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

日本および世界の食文化について学習し、その重要性を子どもたちに伝える能力を養うことを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

1. 世界の食文化大系、その比較 (6 コマ)
日本や世界の食生活の歴史とその文化を、それぞれの自然環境・社会の成り立ち・歴史的背景の違いから説明する
2. 日本のたべごと文化の特徴 (6 コマ)
現代に生きる日本人のたべごと文化について考える力を養成する。
3. 日本のたべごと文化の児童への伝承 (1 コマ)
現代の子どもに食文化を伝える重要性についても考察する。
4. 食文化に関する教育実践力の養成 (2 コマ)
食文化に関する教育実践力を養成するために、受講生に食文化に関するテーマを各自一つ選択させ、そのテーマについて文献等情報収集をさせる。収集した情報をどのように工夫すれば限られた授業時間内で子どもたちの理解が得られるかを念頭に整理させて教育実践力を養う。

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

レポート

【教材】

参考書：奥村彪生解説「聞き書 ふるさとの家庭料理」全20巻 農文協
奥村彪生「おくむらあやお のふるさとの伝承料理」全13巻 農文協
奥村彪生「日本のたべごと文化」農文協
河合利光編著「比較食文化論」建帛社、
草間正夫「食生活論」裳華房
ブリア・サバラン「美味礼賛」筑波常治、
日本放送出版協会 関根秀雄・戸部松美訳、「米食・肉食文明」岩波文庫、
鯖田豊之「肉食の思想」中公新書

【受講生へのコメント】

【開講年度・学期】 2017 年度・通年
【科目名】 前期特別研究
【英語表記】 Advanced Studies for Master's Course
【科目ナンバリング】 HDASM8501
【担当教員】 指導教員
【授業形態】 通年
【単位数】 10単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

修士学位論文の研究課題遂行のための理論、研究実験法、解析法についての体系的な知識・技術の修得を目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

院生それぞれに対し、研究課題の設定、研究計画の立案を指導し、関連専門書および先行研究論文の検索・講読を徹底し、研究実験を実施する。得られたデータの解析や研究の展開に助言を与え、研究成果の学会発表、学会誌への投稿を指導し、修士論文の完成に導く。

1. 研究課題の設定
2. 研究計画の立案
3. 関連専門書および先行研究論文の検索・講読
4. 研究実験
5. データの解析
6. 研究成果の発表

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

修士論文の内容、公聴会での研究発表を通して総合的に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

全コース共通

【開講年度・学期】 2017 年度・a (昼間クラス) 前期 b (夜間クラス) 前期
【科目名】 生活科学論ゼミナール
【英語表記】 Seminar on Human Life Science
【科目ナンバリング】 HHLS6501
【担当教員】 西川禎一 ほか
【授業形態】 ゼミナール
【単位数】 2 単位 (1 年次必修)
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

現代の世界における人々の生活と取り巻く課題をどう見るか。私たちが暮らす日本の生活と課題をどう見るのか。そして地球市民として世界と日本の生活を考えるとき、私たちはどのように暮らし行動すべきなのか。この明白な単一解を見出しえない命題について、食・健康科学、居住環境学、総合福祉・心理臨床科学の3つの専門分野の大学院生と教員が議論し模索する。このプロセスを通じて、各人がそれぞれの視座を確立し、専門に安住せず、多様な視点を有する人材と協働しながら生活課題に対して挑戦し続けることのできる基盤を形成する。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

授業日程表は第1回の講義時に通知するが、昼間開講コースは4/17, 5/8, 5/22, 6/5, 6/19, 7/3, 7/10, 7/31、夜間開講コースは4/11, 4/25, 5/9, 5/23, 6/6, 6/27, 7/11, 7/25の予定

第2～7回は全て講義と演習からなる。

第1回	研究不正防止・研究倫理について (研究科長)・生活科学論ゼミナール概論 (西川)	(2コマ)
第2回	生活科学と食環境 (西川・安井)	(2コマ)
第3回	栄養学の外から見た食の効用と生活科学への応用 (山本雅之・葩島)	(2コマ)
第4回	生活科学と居住空間デザイン (小池)	(2コマ)
第5回	超高齢社会における生活科学を考える (篠田)	(2コマ)
第6回	2040年の少子高齢・人口減少社会を想定する (岩間)	(2コマ)
第7回	地震と住まい (渡部)	(2コマ)
第8回	ゼミナールのまとめ (西川)	(1コマ)

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

授業中の質疑応答とレポート

【教材】

課題図書リストと資料を配布する

【受講生へのコメント】

“生活科学とは何か”について学修することにより、個々の研究に生活科学の視座を持ち、地球市民として思考を巡らせながら地域で活動するAdvanced QOL promoterを目指してください。

【開講年度・学期】 2017年度・後期集中
【科目名】 生活応用統計学特論
【英語表記】 Advanced Statistics and Its Applications for Human Life
【科目ナンバリング】 HHLS6502
【担当教員】 永村 一雄・佐伯 茂
【授業形態】 講義
【単位数】 2単位
【当学科・コース学生以外の受講】 可

【科目の主題】

居住生活の諸問題に統計学の知識を活かそうとすると、適用するための方法論とそれを運用する技量が必要となる。これらの基礎は、学部で履修することになっている。本特論は、応用や適用の実際を意識して、用いる方法論の本質的な理解を行い、運用の適否を判断できる能力を養う。

【授業の到達目標】

下記4項目の概念的理解を達成目標とし、口頭試問でそれを確認する。
基本統計量の内容、回帰の論理、検定の構造、ベイズ統計学の初歩

【授業内容・授業計画】

たんなる手段の解説や操作の教授は一切行わない。あくまで、運用の理解に徹する。そのため、適切な題材を対象に、討論形式で講義を進める。発表の時間と、黒板を使った解析の説明などを院生自身で体験してもらう。内容は主に以下の構成である。

1. 基本統計量の性質と意味—平均と期待値は違う!?
2. 統計的検定の枠組—結果を恣意的に操作できる!?
3. 回帰問題の本質—残差の性質と診断
4. 多変量への拡張
5. 計量尺度への拡張

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

毎回出席し、討論に参加すること。また、事例を用いた演習を課す。両者を総合して評価する。

【教材】

毎回、資料を配布。

【受講生へのコメント】

記憶ではなく、理解する、という意味を実感するために、この講義を行う。積極的に参加されたし。

【開講年度・学期】 2017年度・前期集中
 【科目名】 国際科学コミュニケーション
 【英語表記】 Global Scientific Communication
 【科目ナンバリング】 HHLS7501
 【担当教員】 ファーナム クレイグ・早見 直美
 【授業形態】 演習
 【単位数】 2単位
 【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

Course is a concentrated course over 4 days, with breaks between to allow students to prepare writing and oral presentation assignments.

【授業の到達目標】

To help graduate students write clear English-language research papers and present at English-language conferences.

【授業内容・授業計画】

This course will be conducted in English. Japanese-language consultation is available during office hours.

Each theme will start with written practice and oral practice of key phrases. Then, each student will do the complete oral presentation task, receive feedback from instructors and other students, and repeat the task with improvement.

Theme	Hours	Written work	Hours	Presentation practice
Research summary and background	2	Literature review Defining specialist terms	2	Self-introduction 1-minute summary of research for general/ for specialists
Describing processes	2	Describe a scientific process Describe an experimental procedure	2	Presentation basics 3-minute presentation of experiment or process
Data, Graphs and Charts	2	Explain numerical data Explain equations Explain charts	2	5-minute presentation of results or data
Discussion and conclusions	2	Make conclusions based on data Explain results in context of previous knowledge and expectations Explain unusual results Explain significance of results	3	5-minute presentation of results with conclusions and discussion
Question & Answer	2	Answering a peer review Most likely questions Responses for difficult questions	2	Answer questions Answer difficult questions Pose questions
Final presentation		2-page (A4) presentation outline	3	Each student gives 9 minute presentation with 5 minute question and answer

【事前・事後学習の内容】

Self-study and at-home oral practice is required.

【評価方法】

Class participation (40%) Writing assignments (30%)

Oral presentation assignments (30%)

【教材】

Some handouts from the instructors. Each student's individual research material and papers.

【受講生へのコメント】

Basic literacy with word processing, spreadsheet and presentation software (such as MS

後期博士課程

【開講年度・学期】 2017年度・通年集中
【科目名】 後期特別研究
【英語表記】 Advanced Studies for Doctor's Course
【科目ナンバリング】 HDASD8601
【担当教員】 指導教員
【授業形態】 通年
【単位数】 10単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

博士学位論文の研究課題遂行のための基礎となる理論、実験について体系的な知識・技術の修得と研究成果のまとめを目的とする。

【授業の到達目標】

主題を理解し、実践する際に応用可能な知識、スキルとして定着させる

【授業内容・授業計画】

院生それぞれに対し、研究分野に関連する学術論文の精読、研究課題の設定、研究計画の立案、実験指導等を行い、博士学位論文の完成に導く。あわせて「ゼミ形式」により各専門分野に関わる最新の研究成果の理解、把握を徹底させる。研究成果の学会発表、学術論文誌への原稿作成・投稿についても指導する。

1. 研究分野に関連する学術論文の精読
2. 研究課題の設定
3. 研究計画の立案
4. 研究実験
5. 研究成果の発表

【事前・事後学習の内容】

毎回の授業で指示する

【評価方法】

博士論文の内容、公聴会での研究発表を通して総合的に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

居住環境学コース

【開講年度・学期】 2017年度・通年集中
【科目名】 後期特別研究
【英語表記】 Advanced Studies for Doctor's Course
【科目ナンバリング】 HEASD8601
【担当教員】 指導教員
【授業形態】 通年
【単位数】 10単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

1年次は関連分野の研究成果を系統的に再整理し、学位論文の構成について検討する。また、はじめの副論文の作成を計画し、学会誌などへの投稿を計画する。2年次は学会誌などへの副論文の投稿を進め、学位論文作成の計画を具体化する。これらの過程を通して、研究の発展過程や学术论文の倫理性、実証性を学ぶ。3年次は投稿した副論文などを主要構成要素として、学位論文の作成を行う。

【授業の到達目標】

博士論文の研究課題遂行のための基礎となる理論、調査、実験などの研究方法や分析方法についての体系的な知識・技術の修得、および研究者としての能力を高めることを目的とする。

【授業内容・授業計画】

1. 研究方法、関連する知識・技術の修得
2. 研究計画の立案
3. 実験・調査等の実施と解析
4. 副論文の作成と投稿
5. 博士論文の作成

【事前・事後学習の内容】

配布資料を講義までに読んでおくこと。講義終了後は復習すること。

【評価方法】

日々の研究の進捗状況、副論文の内容、博士論文の内容、公聴会でのプレゼンテーション等を通して総合的に評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

総合福祉科学コース

【開講年度・学期】 2017年度・通年集中
【科目名】 後期特別研究
【英語表記】 Advanced Studies for Doctor's Course
【科目ナンバリング】 HFASD8601
【担当教員】 指導教員
【授業形態】 通年
【単位数】 10単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

博士学位論文の作成を指導する。1年次は、これまでの研究成果をふまえて系統的発展を促し、研究課題を設定する。研究課題に関する文献収集と講読を行い、関連する調査等を含め、博士論文の中核となる認定論文の作成を計画立てる。

2年次は、計画に基づいて研究を継続し、学会発表や学会誌等への投稿に向けた指導を計画的に行う。

3年次は、博士申請論文の具体的な執筆に向け取り組む。継続的な指導により、博士論文の完成を目指す。

【授業の到達目標】

博士論文の作成に必要な知識と執筆能力を習得する。

【授業内容・授業計画】

1. 研究課題の明確化
2. 論文作成計画
3. 学会発表や学会誌への投稿に向けた取り組み
- 4～15. 博士論文の執筆に向けた指導

【事前・事後学習の内容】

各講義の最後に各自が取り組むべき事後学習と事前学習の内容について指導する。

【評価方法】

博士論文の内容、公聴会での研究発表を通して総合的に評価する。

【受講生へのコメント】

博士論文の申請には、学術雑誌等への論文掲載が条件となる。したがって、学生自らが学会発表や学会誌への投稿など積極的な研究姿勢をもち、自らの学術的能力を高めるべく自己研鑽に努めることが大切である。

臨床心理学コース

【開講年度・学期】 2017年度・通年集中
【科目名】 後期特別研究
【英語表記】 Advanced Studies for Doctor's Course
【科目ナンバリング】 HGASD8601
【担当教員】 指導教員
【授業形態】
【単位数】 10単位
【当学科・コース学生以外の受講】 不可

【科目の主題】

博士論文作成のための理論的、技法的指導を系統的に行う。指導内容は、理論的展望によるオリジナルなテーマの選定、調査法の精緻化、実証データの演繹と独自の理論化となる。

1年次～2年次には、主に先行研究の展望を徹底的に行い、独自のテーマを設定していく。このテーマに関して、妥当な方法論の研究を行い、1年次後半にパイロットスタディを終了し、方法論の修正・検討を加える。修士論文で執筆した内容およびそれを進展させたものを学会で発表したり学会誌へ投稿したりする。その際、指導教員から入念な指導を仰ぐ。

3年次には、前述した論文および研究資料から演繹した独自の理論をもとに学会発表と学会誌への投稿に専念する。先行文献との関連から独自性を再評価し、科学的なオリジナリティを有する論文として章立て、内容に関する指導を行う。こうした課題を達成していくプロセスにおいて博士論文の完成を目指す。

【授業の到達目標】

最終の到達目標は学位論文の提出であるが、それに到る目標は専門学会誌等における（レフり付きの）学術論文の投稿と掲載である。学術論文作成の目安は、3～4本である。

【授業内容・授業計画】

1. 研究課題の明確化
2. 論文作成計画の精緻化
3. 学会発表の準備と実施
4. 大学・研究所紀要や専門学会誌への投稿準備と実施
5. 学会誌への掲載論文を中心とする博士論文の全体構成

【事前・事後学習の内容】

学会論文については査読委員会からの評価があるので、その評価に基づいて論文の形式・内容について事後学習が不可欠となる。それは同時に、学位論文に向けての事前学習となる。

【評価方法】

博士論文、博士論文審査会でのプレゼンテーション、学位論文の公聴会をもって評価する。

【教材】

【受講生へのコメント】

博士論文の申請には、専門学会誌への掲載が必須条件となる。そのため、日頃、真摯に研究に取り組み、一本でも多く、専門学会での発表を行えるように心がけて頂きたい。